

第2回日本高度実践看護学会学術集会

# 共催セミナー3

2026

6/6(土)

12:30~13:30

## 第6会場

札幌市教育文化会館  
4階講堂

## 高度実践看護師による RRSの臨床実装

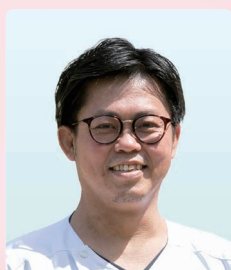
—EWSを活用した判断と調整—



座長

増山 純二 先生

令和健康科学大学 看護学部看護学科 実践看護学 教授  
臨床シミュレーションセンター センター長  
令和健康科学大学大学院 実践看護学コース コース長



演者

森 一直 先生

愛知医科大学病院 NP部 部長  
愛知医科大学 看護学部 教授(特任)

※ 事前申し込み不要

当日、整理券を配布予定(名札着用必須/1人1枚/数量限定)

6月6日(土)9:30より1階大ホール前受付にて配布予定、なくなり次第終了

共催:第2回日本高度実践看護学会学術集会 フクダコーリン株式会社

第2回日本高度実践看護学会学術集会  
共催セミナー3

# 高度実践看護師によるRRSの臨床実装 —EWSを活用した判断と調整—

森 一直 先生

愛知医科大学病院 NP部 部長  
愛知医科大学 看護学部 教授(特任)

近年、日本においてRapid Response System (RRS) は、診療報酬上の評価を受け、院内迅速対応システムとして整備され始めている。RRSは単なる急変対応の仕組みにとどまらず、患者安全文化の醸成や多職種協働の基盤として、その重要性が高まってきている。一方で、RRSの運用実態は施設によって大きく異なり、専門的知識をもつ医療職者が関与する体制の構築が課題である。加えて、クリティカルケア部門の医療者が中心となって活動しているため、病院全体に普及するのに時間を要する。

海外に目を向けると、Nurse Practitioner (NP) がRRSのチームの一員となり中核的役割を担うことが示されている。NPによる迅速な臨床判断と早期介入は、院内心停止の減少やICU入室率の低下、患者アウトカムの改善をもたらすことが複数の研究で明らかにされている。このような動向をみても、日本においても高度実践看護師(Advanced Practice Nurse: APN) がこの役割を担う可能性と意義があると考えられる。

RRSは、シングルパラメーターシステムとマルチパラメーターシステムの2つに大きく分けることができる。マルチパラメーターシステムの一つであるEarly Warning Score (EWS) と呼ばれる早期警告スコアは、バイタルサインを含めた7項目の合計スコアにより早期介入のトリガーとなる。EWSは、早期警戒・早期介入のトリガーとして機能するだけでなく、患者の病態変化をリアルタイムで共有するための有効なツールである。さらに、RRSは終末期患者も対象としているため、急変対応と終末期ケアの両輪として機能するツールであり、その活用の可能性は非常に大きい。特に、EWSのスコアの変化は、治療の差し控えや緩和ケアへの移行など、ケアの方向性を多職種・患者・家族とともに再考する契機ともなりえる。

APNは高度な臨床判断にとどまらず、多職種間の調整やコンサルテーションの担い手として専門的な役割を果たす。具体的には、EWSのスコアに基づく病態アセスメント、医師への適切なエスカレーション、看護師への指導や教育、ケアの方向性の合意形成における支援などが挙げられる。特に終末期患者においては、APNが患者や家族の価値観を尊重した治療決定や多職種による継続したケアの実施などの調整機能も担うことができる。

本セミナーでは、RRSの概論と具体的実践を示しながら、APNがRRSで果たすべき役割について考察し、その可能性を提示する。